

はらじゅくかわら版



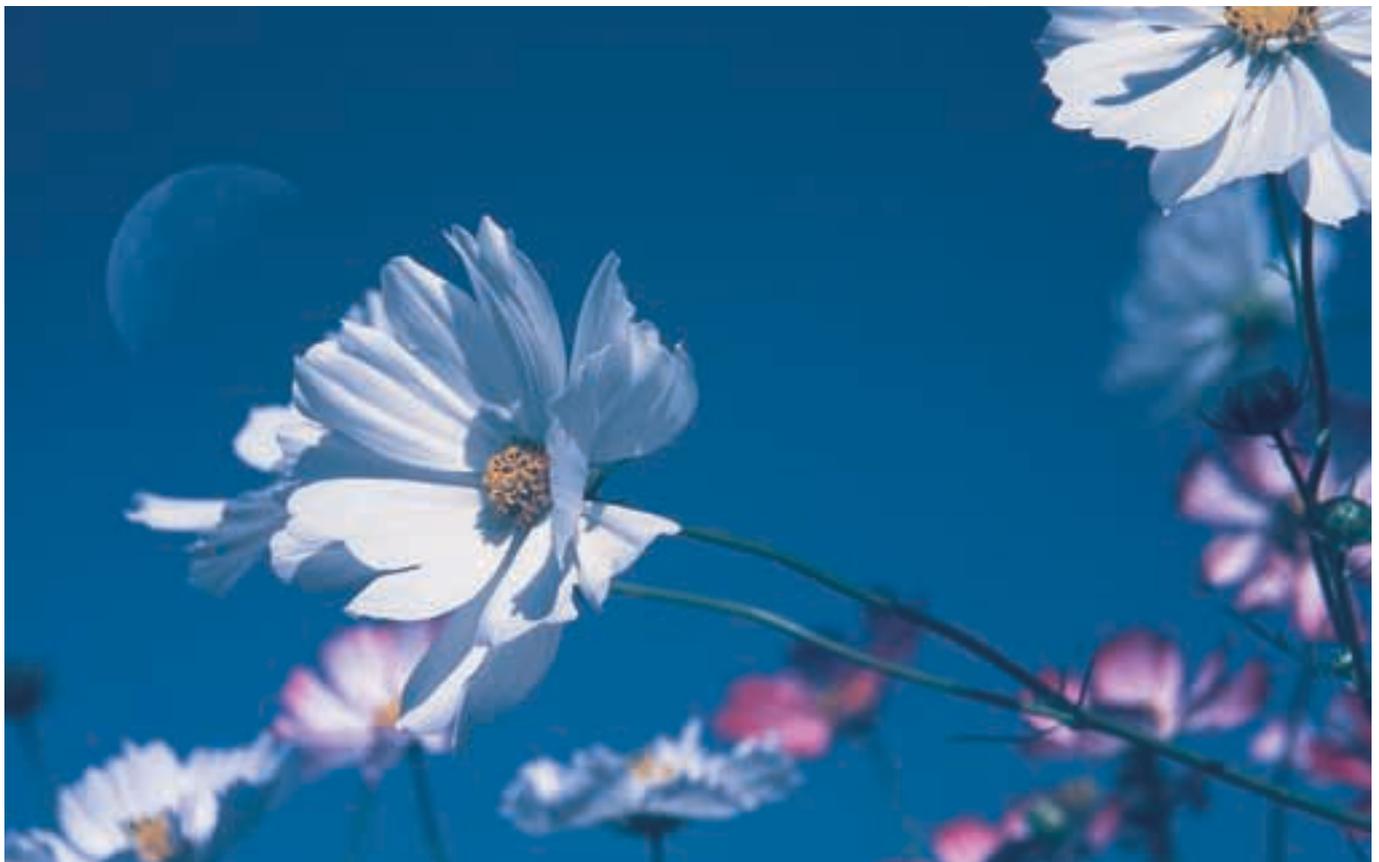
独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



何故か秋桜は、日本では女性の代名詞に使われております。しかし、ご存じかと思いますが、実は原産はメキシコなのです。月と秋桜を並べて撮ってみました(多重撮影をしました)。臨床検査技師長 並木 信治

第14号 目次

就任挨拶	1
就任挨拶	2
看護師パート職員募集	2
地域医療連携	
病診連携施設紹介	3
地域医療連携室から/地域医療支援病院に向けて	4
お知らせコーナー	
医療安全管理室/胃手術後に不足する栄養素について(その2)	5
看護学校入学試験について	6
MRI・体外衝撃波結石装置導入	7
脳ドッグについての御案内/検討会・研究会の開催	8
シリーズ	
気になる病気	9

職場紹介 — 循環器科/心臓血管外科	10
看護部だより/WOC通信第1号	11
行事等紹介	
戸塚区循環器病研究会第200回記念講演会	12
戸塚糖尿病ネットワーク5周年記念学術講演会/医師の人事異動	13
患者数の動向/編集後記	14
外来担当医表	15

発行 月：平成18年10月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
 広報委員会
 発行責任者：高橋 俊毅
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 F A X：045-851-3902
 U R L：http://www.hosp.go.jp/~yokoham/

就任挨拶

本年7月1日付けで臨床研究部長に就任いたしました。当院の臨床研究部は、1990年度より高度総合診療施設として機能付与され、開設いたしました。初代部長は林直諒先生、高橋陽先生、青崎正彦先生、藤津和彦先生（現副院長）のあとを継ぎ、私が5代目になります。現在臨床研究部には病因・病態研究室（室長：宇治原統括診療部長併任）、臨床疫学研究室（室長：松島消化器科部長）、病理・免疫研究室（室長：新野臨床検査科長）、生化学・遺伝子研究室（室長：小松併任）、画像・情報解析研究室（室長：椎名放射線科部長）、の5つの研究室があります。



臨床研究部長 小松 達司

臨床研究部にはいくつかの責務があります。まず第一に（当然ですが）、臨床研究の推進です。高度の専門的医療を維持していくためには、質の高い臨床研究活動が必要であり、また、優れた臨床研究には、地道な臨床活動による詳細なデータの蓄積が必要です。当院の理念でもある質の高い総合的な専門医療を提供していくためには、研究成果をあげることも重要であり、臨床研究部が担う責任も非常に大きいと私は思います。当院の臨床研究を行なうにあたり少なくとも難点が2つあります。一つは、多忙な日常診療業務の中で、研究を継続していく時間がなかなかとれないということです。もう一つは、特に若い先生方は、前任の施設で行ってきた研究を継続して行なうのが難しい状況にあるということです。このような困難な状況の中、研究の環境や体制の整備を行い、研究意欲がある先生方を少しでもバックアップしていければと考えています。

臨床研究部の第二の役割は情報発信です。すなわち最新の知見を、当院職員のみならず、周辺の医療関係者、患者さんに伝えていくことです。具体的には院内の講演会、医師会の先生方などを対象とした研究会、患者さんや周囲住民の方々を対象とした市民公開講座の開催などです。特に市民公開講座は、各診療科の先生方にも協力いただき、定期的に企画したいと思っております。

臨床研究部のもう1つの大事な役割は治験の推進です。治験コーディネーター（CRC）3名（桜井、福川、佐久間）を中心に、治験管理室のスタッフが、積極的に治験の推進に取り組んでいます。現在、外来待合室では患者さん向けに治験の説明のビデオを放映しています。また関係する職員を対象に、治験に関する講演会を計画、実施しております。医師、看護師、薬剤科、検査科、放射線科、事務など多部門の職員、そして何より患者さんに御協力いただいて、一層迅速で正確な治験を行ないたいと思います。

微力ではありますが、今後も当院の発展のために努力していきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

就任挨拶

皆さんへのご挨拶が遅くなりましたが、7月1日付で香西事務部長の後任として着任いたしました千田でございます。前任地は、病院長であります高橋先生が兼務しております関東信越ブロック事務所で、ブロック担当理事としての高橋先生に1年3ヶ月の間ご指導いただきました。当然、横浜医療センターの激動の一年間も話題になり、ブロック職員として共に一喜一憂しておりました。

今、この場を借りて皆様にご挨拶をし、横浜医療センターの一員に加えていただいたことを嬉しく、感激しております。ただ、喜んでばかりはられないのが現実でしょうか。当然、新病院建築の話は周知の事実でありますし、早い時期に計画が実行できるように、私も、前任の香西事務部長が掲げた年度当初の志である「現在の診療機能の維持、拡大しながら横浜医療センターの理念を目指し、経営改善を進め、安定した経営を進める」ことを踏襲し、少しでも早い時期に皆さんの夢が叶えられるよう、高橋病院長の片腕として頑張りたいと肝に銘じております。

しかしながら現実には厳しく、着任早々にも、横浜医療センターの今年度計画と実績の乖離について機構本部から説明を求められるなど、私達が目標達成に向かい実行すべきは“ひとつ”、健全経営のため「収入を確保すること」、その為に「入院患者数を確保すること」であり、緊急スタッフ会議で病院長から直接、職員の皆さんに説明した内容を各自が心掛け、自分たちが病院経営者の一員として頑張ることだと考えますし、私も皆さんと一緒に汗を流し、新病院建築の工事が一日でも早く始まるように頑張りますのでご支援ご協力をよろしくお願い致します。新病院建築登山も、まだまだ三合目をウロウロしている状態です。お互いに頑張りましょう。



事務部長 千田 隆夫

看護師募集中

募集職種：非常勤看護師

勤務時間：週30時間

(勤務日・時間応相談)

給 与：時給1,520円

(月額約190,000円)

連絡先：管理課給与係 篠原

電話番号：045-851-2621



地域医療連携 病診連携施設紹介

久保内科胃腸科医院

診療科目：内科・胃腸科・呼吸器科・循環器科・小児科



写真中央 久保精志院長

久保内科胃腸科医院は、昭和32年の元日に、戸塚区汲沢町2234の地に久保内科医院として産声を上げ、3年後現在の地に移転。平成元年9月に医療法人化し、平成12年5月に理事長を父正敏より継承し現在に至る。

父から「流れに逆らう事無く」と言われ育ったが、開業医としてカリスマ的力を備えた父の後を担う身は何時になっても辛い。愚直な世渡りベタが此処まで何とか診療を続けて来られたのは、医師会の諸先輩方そして地域基幹病院である旧国立横浜病院、現在の横浜医療センター各科のご支援のお陰様と感謝申し上げます。古い話で恐縮だが、小生も旧国立横浜病院で研鑽させて頂いた時期がある。昭和61年からたったの2年半程で、当時院長は故浅野一雄先生、直属の上司は林直諒先生だった。小生が医局人事で県立がんセンターに移動になった後任が、今や不動の看板たる小松達司先生その人。父が病んで外来に出られなくなり、来院数は往事の半分に落ち込んだ。漸く小生の診療スタイルを受け入れて頂ける方が増えつつある最近、患者様のための医療を何時まで継続出来るかが総てという心境に達する事が出来つつある。そんな時期に新生横浜医療センター院長に赴任された高橋俊毅先生は、小生の出身大学で厳しくも温かいご指導を頂いた大先輩であり、毎月の消化器勉強会で「元気でやってるか」と気さくに声を掛けて下さる。鬼に金棒の心境で、たくさんの患者様の相談や緊急治療を、何の気兼ねなくお願い申し上げている。これ正に凡庸継代開業医の、地域の皆様へのご恩返しと心得る。進むべき道が明らかとなれば、あとは唯無心で日々精進するのみ。我が開業医人生に微塵の悔い無し。こんな分り切った境地に達するまで、何と16年を費やした。まだ父のレベルの半分にも達していないが、目標は高いほど目指すに迷い無し。こんな小生の背中が子供達にはどう映るか、あの鼻垂れ小僧がそんな事を考える年になろうとは。



久保内科胃腸科医院

〒245-0061 戸塚区汲沢8-11-27

TEL 045-881-1810 FAX 045-862-3370

診療時間

月・火・木・金	9:00~12:00	2:00~4:00	4:30~6:00
水・土	9:00~12:00	2:00~4:00	
日	9:00~12:00		

休診日：祝日

診療科目：内科・胃腸科・呼吸器科・循環器科・小児科

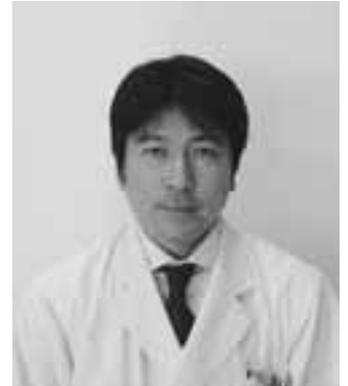
地域医療連携室から

地域医療支援病院に向けて

第1回 かかりつけ医との医療連携

地域医療連携室長・統括診療部長 宇治原 誠

地域完結型医療とは、地域のたくさんの医療機関が連携して、地域住民の皆様の病気の治療を行い、健康を守ることをいいます。当院のような地域の基幹病院と、地域の医院、診療所などのかかりつけの医療機関とが、他の病院や老人保健施設、訪問看護ステーションなどと、役割を分担し、連携して地域完結型医療を行います。この連携を地域医療連携といいます。横浜医療センターは、地域医療連携を推進しています。地域医療連携を推進する基幹病院が一定の基準を満たすことで、地域医療支援病院になります。当院は近い将来、地域医療支援病院になることを目標としています。今回からシリーズで地域医療支援病院と地域医療連携について説明します。



当院が地域の基幹病院として、地域住民の皆様の健康増進という使命を果たすには、急病の患者さんに対する急性期医療と、専門的な検査、指導、手術などを行う専門医療をさらに強化する必要があります。しかし、最近のマスコミ報道でご承知のように、当院も含め大多数の病院は医師の確保が十分とはいえません。また病院には、医師だけでなく、看護師を含め医療従事職員と一般職員も多数必要です。地域完結型医療の一員として使命を果たすには、救急医療と専門医療の担当として特化し、それ以外の医療の役割は他の医療機関に担っていただくことが必要です。地域全体の医療、つまり地域医療完結型医療の質を上げるためには、地域での医療の機能分担をより推進しなければならないのです。

今回説明するのは、かかりつけ医と当院の医療連携です。かかりつけ医とは、お住まいの近くのかかりつけの医院、診療所の先生のことです。当地に越してきたばかりとか、今まで病気にはあまりかかったことがないという理由で、かかりつけ医がいないという住民の方もいらっしゃるかもしれません。そのような方もぜひ、かかりつけ医を持っていただきたいと思います。病気の際は、まず、かかりつけ医に診ていただき、必要に応じて、そのかかりつけ医の先生から当院にご紹介いただければ、必要な急性期医療や専門医療をスムーズに受けられます。また、当院で急性期医療や専門医療を受けられた患者さんは、その後かかりつけ医に定期的に診ていただき、精密検査や専門的な定期検査が必要なときに、当院に来ていただくことにより、連携診療が円滑に行えます。そうした目的で地域の医療機関との間で毎月定期的に多くの疾患の研究会を開催して地域連携の質の向上に努めております。

当院が診療していた患者さんを近くの医院の先生に紹介しようとする「見放された」といって憤慨される方がいらっしゃいますが、まったくの誤解です。当院の患者さんであることには変わりありません。もっと正確に言うと、当院とかかりつけ医の2箇所が主治医になるのです。地域によっては、「二人主治医制」と呼ぶ地域もあるほどです。

当院は地域住民の皆様の健康増進という使命を果たすために、地域医療連携を推進し、地域完結型医療に貢献したいと思います。

医療安全管理室

医療安全係長交替 ～医療安全管理業務に携わって～

6月30日付で長年、医療安全管理業務に携わってこられた富田師長が退職された後任として、この度7月1日付で着任いたしました。毎日の様々な事柄に追われるように過ぎた2ヶ月でしたが、力不足な点では皆様にご迷惑をお掛けしている事と心苦しい思いで過ごしております。これまでは病棟のリスクマネージャーとして現場の問題に日々取り組んでまいりました。現在は広い視野で施設全体を見渡し、医療の安全に関わって行かなければならないという責務を今更ながら強く実感しております。



医療安全管理係長 小林 洋子

医療安全は一人で取り組めるものではなく、医療現場に従事する全ての職員の協力と安全意識の元に成り立つものです。私の役割は職員一人ひとりの安全意識を高めると共に其々の部署の安全文化を高め、組織としての医療の安全を確保する事にあります。まずは施設内ラウンドから開始し自らの危険予知意識を磨いているところです。病棟ラウンドでは最初は何かとよく聞かれたものですが、最近は職員の皆さんの方から「こんな事があった、こんな事で困っている」等の声も聞かれるようになり、現場に潜む問題を検討する機会を与えられています。今後は安全に関する事例であれば各部署のカンファレンスにも参加し一緒に学んで行きたいと思っておりますので是非、声をかけて頂きたいと思っております。

最近の情報誌によると5人に1人の割合で患者さんは医療または医療の場に不安を抱いているということです。職員が自信を持って医療の提供を行い、患者さんも不安なく医療機関を受診できますよう「安全で安心の医療」を目指して努力してまいりたいと思っております。

胃手術後に不足する栄養素について(その2)

当院栄養管理チームの成果

外科医長 佐藤 靖郎

いつも皆様方にはこの原宿かわら版を通して栄養に関する種々の記事をお届けしております。今回は前回取り上げました胃の手術後の栄養素の不足についてさらに掘り下げたいと思っております。

前回取り上げたことは以下の通りです。

胃切除を受けた患者さんに不足しがちな栄養素はビタミンB₁、ビタミンB₂、ビタミンC、亜鉛であることは前号に取り上げました。

各栄養素が多い食材は以下の通りです。

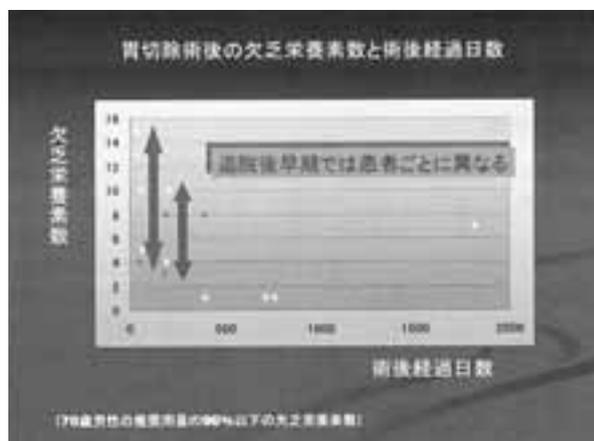
ビタミンB₁；豚肉、ハム、うなぎ、種実、豆類

ビタミンB₂；レバー、うなぎ、乳製品、納豆

ビタミンC；果物、野菜

亜鉛；魚介、肉、種実、穀類

しかし我々の分析においては人により栄養素の不足および組み合わせは異なり、多い人では10項目以上の栄養素が不足しております。また患者さん御本人だけでなく、食事作成者に大きく影響され、家族全体でそれらの栄養素が不足していることが少しずつ明らかになってきております。さらに手術後早期では大きく患者さんごとに異なるという結果も出ております。(図参照) 対策としては胃の手術を受けた患者さんだけでなく、食事を作る人も含めて栄養相談をお受けになることをぜひお勧めします。



図の説明；術後経過日数と欠乏栄養素数との関係（胃切除後）；退院後早期では欠乏栄養素数に大きな開きがあることに注意。これは食事の作成者によりかなり影響される。栄養相談や補助栄養剤の摂取をお勧めいたします。

平成19年度 横浜医療センター附属横浜看護学校入学試験について



新校舎予定図

平成19年度から学生定員が80名の大型校となります（申請中）。

社会人入試も導入いたしました。下記の日程で試験を予定しております。

興味のある方、お知り合いに希望される方がいらっしゃいましたら、お問い合わせください。

詳細は学校案内・募集要項をご覧ください。

区分	出願期間	試験日	試験科目	合格発表日	入学手続締切日
社会人	平成18年11月1日(水) 〃 平成19年1月4日(木)	平成19年1月13日(土)	学科試験 国語総合(現代文のみ) 英語 I・II 面接試験(個人面接)	平成19年1月16日(火) ホームページ、郵送、 学校玄関前掲示	平成19年1月26日(金)
一般	平成18年12月1日(金) 〃 平成19年1月4日(木)	<一次> 平成19年1月18日(木) <二次> 平成19年1月29日(月)	<一次> 学科試験 (解答方法は選択肢法) 英語 I・II 国語総合(現代文のみ) 数学 I <二次> 面接試験(個人面接) 一次試験合格者のみ	<一次> 平成19年1月25日(木) <二次> 平成19年1月31日(水) ホームページ、郵送、 学校玄関前掲示	平成19年2月15日(木)

募集要項請求方法

返信用の封筒をお送りください。

封筒サイズ（角2）に240円分の切手を貼り、住所・氏名を明記し「募集要項請求」と朱書きした封筒に入れて郵送してください。

請求先 〒245-0063 横浜市戸塚区原宿3-60-2

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター附属看護学校 入試係宛

MRI装置が新しくなりました

放射線科部長 椎名 丈城

当初予定よりも遅れましたが、9月から新しいMRI（磁気共鳴画像診断）装置が稼働開始しております。新MRI装置はフィリップス社製の1.5T（テスラ）の磁場強度を有する最新機種です。急性期脳梗塞の診断に欠かせない頭部拡散強調画像は勿論ですが、現在トピックとなっております躯幹部の拡散強調画像も撮像が可能となります（全身撮影には対応していません）。拡散強調画像は乳癌や前立腺癌等の診断に有用性が認められていますが、原因不明の疼痛や発熱の診断にも有力な情報を与えてくれる場合があります。表在病変や関節等が撮像可能なマイクロコピーコイルでは、非常に空間分解能が高い画像が得られるようになりました。頭部、躯幹部のMRA（MR angiography）や胆管・膵管を描出するMRCP（MR cholangiopancreatography）も従来よりも一層の高画質での検査が可能です。放射線科では、夜間の頭部緊急MRIにも対応出来る体制を整備しております。MRIに関しましてご不明な点がありましたら、放射線科までお尋ね下さい。



尿路結石破砕器が導入されました

泌尿器科部長 本田 直康

尿路（主に尿管）結石症は、突然の側腹部仙痛発作で、患者様が緊急に病院を受診される代表的疾患の一つです。その痛みはよく七転八倒と表現されますように、かなりつらいもので嘔気、嘔吐を伴うこともしばしばあります。原因としましては、明らかな遺伝的疾患に伴うものも極まれにありますが、その多くは原因不明の特発性と言われるものです。一般的に個人の素因に食事などの生活習慣が関連し発症すると考えられています。以前は、牛乳などのカルシウムや尿酸を含むホウレンソウを控えるようになどと言われましたが現在では、いわゆる成人病予防と同様にバランスのとれた食事で脂肪を控え水分を十分に摂ることが推奨されています。治療につきましては、長径が10mm以下のものであれば、飲水、点滴などで自然に結石が排出する可能性があります。癒着などにより小さな結石でも排出されないこともあります。これ以上大きな結石や、腎臓に大きな影響のある場合、以前は開腹手術で結石を摘出しておりましたが、現在では体外衝撃波結石破砕器による治療が主流となっております。これは、身体に密着させた水をいれた風船のようなものを通して体内に衝撃波を伝え結石を細かく砕き、尿と一緒に排出させるもので、ほとんどの場合麻酔も不要で、短期の入院で治療が可能です。平成18年7月より当院にも結石破砕器が導入されました。治療のお問い合わせなどは、泌尿器科外来へお願い致します。



当院脳ドックについてのご案内

待望の高画質・高速MRIを導入しましたので、しばらく中断しておりました脳ドックを再開致します。



副院長（脳神経外科）
藤津 和彦

有意義なMRI検査を行うために少し説明をさせて頂きたいと思っております。当院の脳ドックは『クモ膜下出血の原因となる脳動脈瘤を診断し、破裂予防の手術治療をする』ことを第1の目的にしています。脳動脈瘤破裂によってクモ膜下出血を生じた患者さんの約1/3は短時間の間に死亡、脳死、植物状態などに陥り手術不能、次の1/3は手術で救命されるものの半身麻痺や言語障害などの重大な後遺症を残し、手術によって幸運にも元の生活に復帰できる方は残り1/3に過ぎません。当院脳神経外科は年間平均90例近い脳動脈瘤を手術し、関東一円でも最も多くこの疾患を手術しています。この脳動脈瘤手術の約2/3はまだクモ膜下出血を生じていない状態で脳ドック等で発見された“未破裂脳動脈瘤”です。しかも、この予防手術の割合は年々増加しています。その満足すべき治療成績等の詳細は当院脳神経外科のホームページを参照下さい。

(<http://www.yokohama-mc.com/shinryouka/noushinkeigeka.html>)

一方、脳出血や脳梗塞の予防管理の目的で行われる脳ドックは高血圧、糖尿病、高脂血症、心電図異常などに対する内科的な生活指導が必須で、当院脳神経外科外来診療の容量を越えてしまいます。この目的で脳ドックを希望される方は他院脳ドックをお勧めします（日立戸塚病院、戸塚共立病院、西横浜国際総合病院、国際親善病院、大船中央病院など）。

受診希望の実際に関しては地域医療連携室（045-853-2331）に平日午後1時から5時の間にお問い合わせ下さい。

横浜医療センター症例検討会・研究会開催のお知らせ

西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科部長
045-851-2621（代）

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第2月曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松臨床研究部長・松島消化器科部長
045-851-2621（代）

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。

気になる病気

●●●関節リウマチについて●●●

関節リウマチは、人間が生来持っている免疫機構に異常が起こり、その結果、関節に炎症が起こり関節に腫れと痛みが生じる病気です。この炎症が継続すると関節が徐々に破壊され、やがて機能障害を起こします。関節炎は手首や手足の指の関節に生じやすく、また左右両側の関節に現れることが多いのが特徴の一つです。また関節を動かした時のみに痛みを生じやすい「変形性関節症」と異なり、じっとしていても痛いのが大きな特徴です。関節リウマチの発症のピークは30～40歳代で、性別は女性に多く、男性に比べ5～6倍です。関節リウマチの治療の基本は、病気の進行を抑えることと、痛みをコントロールすることです。関節リウマチの場合、痛みというのは①炎症による痛み、②増殖した滑膜による痛み、③関節が破壊された痛みの3種類があります。それぞれの痛みにあわせて薬物療法、手術療法、リハビリテーションを用いた治療が行われます。薬は痛み止めに加え、異常な免疫を抑制、調整するものが使用されます。関節破壊や細胞間の情報伝達に働く生体内蛋白（サイトカイン）の働きが判明してきており、これを選択的に阻止する生物学的製剤が考えられてきました。この治療法が約2年前より実現可能となり、従来では考えられない効果が認められています。当科でも80%以上の有効率が認められています。残念ながら関節障害が進み日常生活に支障をきたす場合には、人工関節置換術を中心とした外科手術で回復を図ります。また炎症が落ち着いた場合には、関節のリハビリテーションも大切な治療です。関節リウマチというと、将来的には「寝たきり」というイメージが持たれた時代もありましたが、最近ではこれらの治療がすすみ、決して悲観的になる病気ではありません。特に病気の早期の段階では、破壊された関節の修復が多くの論文で報告されてきており、近い将来更に患者さんが選ぶ治療の選択肢が増えることが予想されますし、前向きな明るい気持ちで取り組んでいくことが大切な病気です。



リウマチ・アレルギー科部長
泉二 恭輔



メタボリックシンドロームについて

食欲の秋、実りの秋と美味しい野菜や季節の魚が一斉に店頭に並びます。ついつい食べ過ぎてしまうのも「食欲の秋」です。その結果、秋の健康診断であなたはメタボリックシンドローム予備軍といわれてしまう。という経験はありませんか？
内臓脂肪型肥満に高脂血症、糖尿病、高血圧など危険因子が重なった状態をメタボリックシンドロームと呼びます。1つ1つの症状は軽くても、重ねもつと動脈硬化が加速し、心疾患や脳卒中など重大な疾患を引き起こす危険性が通常の人より30倍まで高まります。
メタボリックシンドロームの診断基準は下記の通りです。



栄養管理室長
川村 美和子

内臓脂肪型肥満	ウエスト(腹囲)が	血清脂質：中性脂肪値が150mg/dl以上またはHDLコレステロール値が40mg/dl未満
	男性 85cm以上	血糖値：空腹時血糖値が110mg/dl以上
	女性 90cm以上	血圧；収縮期血圧が130mmHg以上または拡張期血圧が85mmHg以上

*内臓脂肪型肥満に加え、血清脂質・血糖値・血圧の3項目のうち2つ以上該当するとメタボリックシンドロームと診断されます。3つのうち1つでも該当すればメタボリックシンドローム予備軍です。ウエストがきつくなっていませんか？食べ過ぎていませんか？運動不足になっていませんか？
食べることは毎日の繰り返しです。よい食習慣を身につけましょう。

食生活の注意

1. 1日3度の食事を心がけ、ゆっくり食べる習慣をつくりましょう。
2. 適正体重を維持しましょう。
3. エネルギーの取りすぎに注意しましょう。
4. 野菜摂取を心がけましょう。
5. 脂肪の取りすぎに注意し脂肪の質にも注意しましょう。
6. 適度な運動を続けましょう。
7. 禁煙を心がけましょう。

職 場 紹 介

●今回は循環器科／心臓血管外科の紹介です。

循環器科 循環器科部長 岩出 和徳 (いわで かずのり)

循環器疾患は、突然の発症、病態の急性増悪、また致命率も高く、緊急対応の多い疾患です。とくに循環器科領域の3大救急疾患である急性心筋梗塞、解離性大動脈瘤、急性肺血栓塞栓症は、初期治療が患者の予後を左右する重症疾患です。循環器科は、心臓血管外科との協力体制のもと、救命救急センターの構成科として24時間365日当直・オンコール体制を敷き、緊急時対応を行っています。



後列左より2番目

スタッフは、田中直秀病棟診療部長（昭51年熊本大卒）、岩出和徳部長（昭55年東北大卒）、加藤丈二医師（昭63年弘前大卒）、巽 藤緒医師（平5年東女医大卒）、小林康徳医師（平5年東医歯大卒）、櫻林佐知子医師（平11年東女医大卒）の6名で診療を行っています。

平成17年度の実績は、救急車搬送数：378件、急性心筋梗塞43例（うち5例院内死亡）が緊急入院し、不安定狭心症を含めると入院当日の緊急経皮的冠動脈形成術施行症例は95例、待機的な心臓カテーテル検査：643例、大動脈・肺動脈等血管造影：72例、心エコー図検査：2144件（病診連携室経由で検査予約可能）でした。また、外来では心房細動の脳血栓塞栓症予防のための抗血栓療法外来に約200例が通院加療中です。

今後も、病診連携・病病連携のもと地域医療に貢献できればと考えています。

心臓血管外科 心臓血管外科医師 盆子原 幸宏 (ほんこはら ゆきひろ)

私は、当科東館雅文部長のご高配により、昨年10月より当院に赴任し、本年1月より手術の執刀を担当させていただいております。私は、平成2年に横浜市立大学を卒業後、東京女子医大日本心臓血圧研究所外科に入局し、心臓血管外科の修練を続けておりましたが、平成8年より12年まで、ドイツ国立心臓センター胸部心臓外科に臨床留学する機会を与えていただきました。この施設は、年間手術件数5,000を超える、世界有数の心臓外科施設であり、そこで、一般的な冠動脈バイパス術、弁置換術から、人工心臓植え込み、心臓移植まで、幅広い手術トレーニングを集中的に受けさせていただくことができました。その時の経験を元に、帰国後はより日本の現状に適合した手術手技の研鑽に励んで参りました。今回、こちらで診療を開始するにあたって、術後の患者様の生活活動の質がすこしでも向上するように、より先進的かつ安全な術式を採用し、良好な治療効果を上げております。技術の進歩と高齢化社会に伴い、80才代での心臓手術も、もはや当たり前となりました。心臓、大血管の病気で手術を受けるか、受けまいかお悩みの方は、どうぞお気軽に当科外来までお問い合わせ下さい。



筆者左側

看護部だより

WOC通信 第1号 褥瘡予防：スキンケアについて

9月1・2日に大宮で日本褥瘡学会が開催されました。(褥瘡とはいわゆる床ずれのことを指します。) 当院からは「褥瘡対策委員会における看護師教育とその効果」について、今行っている看護師教育の現状を発表してきました。褥瘡予防ケアは大変に注目されている分野で、私たちWOC看護認定看護師をはじめとして医師や栄養士、薬剤師など様々な職種が集合し、活発な意見交換がされていました。学会の中でも、褥瘡は予防が大切であるということが言われていますので、今回は褥瘡予防：スキンケアについてについてお話ししたいと思います。



WOC看護認定看護師
牧野 麻希子

褥瘡ができてしまう原因は様々ですが、食事がとれない、尿や便がもれてオムツをしている、乾燥してかさかさしている等皮膚が弱くなる原因があるときは褥瘡になるリスクはとて高くなります。オムツを使っている場合には蒸れや皮膚が濡れてしまうことが多くなるので、露出されている皮膚よりも褥瘡のリスクは高くなります。そのために皮膚の状態をできるだけ健康に近い状態にしてあげることが褥瘡予防のケアでは大切になります。

皮膚を健康に近い状態にするためには、①清潔保持②保湿③保護が大切になります。

肌の弱い人には弱酸性の洗浄剤がおすすめです。肌の表面は弱酸性に保たれ、バリア機能と呼ばれる保護膜を作っています。この保護膜が外界からの刺激から、私たちを守ってくれています。一般的な洗浄剤はアルカリ性のものが多く、健康な皮膚には問題ないのですが、弱くなっている皮膚の場合、アルカリ性の洗浄剤は皮脂をとりすぎてしまい乾燥傾向になることがあります。また洗浄剤は泡立てて使用することで汚れを落とします。必ず泡をしっかり立てるようにします。中には始めから泡で出てくる洗浄剤や泡立てなくても泡立てたのと同様の効果がある洗浄剤なども市販されています。その後は十分石鹸は洗い流し、こすらないように水をふき取ります。またおしりは汚れたら何度も洗いたくなりますが、皮脂のとりすぎを予防するため、1日2回までとしましょう。油(便)は油で落とす！が基本になりますので、油性の皮膚洗浄剤(花王サニーナ®)などを使って優しくふき取りをすることで、皮膚の損傷を防ぐことができます。また油性の皮膚洗浄剤は使用することで皮膚を保護し、便の付着を予防してくれます。そして乾燥した皮膚はかさかさになり、その隙間から汚れやアレルギーが進入し皮膚トラブルを起こすと言われています。そのため保湿してあげることも必要です。これからの季節は乾燥しやすくなってきますので、寝ている時間が多いなど褥瘡が心配される場合には、予防のためにも全身皮膚の保湿を心がけてください。

WOC看護認定看護師の活動

WOC看護認定看護師とは

褥瘡・ろう孔など創傷のスキンケアや排泄障害に対する失禁ケアについて、専門的な知識と技術を持ち、日本看護協会によって認定された看護師です。



スキンケア外来での継続看護

* ストマの調子はいかがですか？

行事等紹介

戸塚区循環器病研究会第200回記念講演会

病棟診療部長（循環器科） 田中 直秀

戸塚区循環器病研究会は、1987年6月10日に前副院長の青崎先生が第一回研究会を開催して以来19年を経過しており、これまでに200回の会合を重ねてきています。1997年10月7日には、第100回研究会を記念して、東京女子医大より細田瑳一教授をお迎えして記念講演を行いました。また2002年1月11日、第150回記念講演を、同じく東京女子医大笠貫 宏教授にお願いして行いました。今回、戸塚区医師会の主催で第200回研究会を記念しまして、東京女子医科大学循環器内科名誉教授、廣澤弘七郎先生を講師としてお招きして、横浜ベイシェラトンで講演会を開催しました。廣澤先生は昭和30年2月に東京女子医大へ赴任されて以来、常に日本の循環器病学のリーダーとして臨床一筋にやられてきた方で、現在も榊原記念クリニックその他で外来診療を続けられています。その先生がご自身の60年余に及ぶ豊富な臨床経験を基にして、「戦後60年日本の医療の移り変わり」と題してご講演をいただきました。講演の内容は、戦後未だ間もない頃、猖獗を極めたリウマチ熱による後遺症としての心臓弁膜症が沢山見られた頃から、近年増加しつつある虚血性心疾患まで、一例一例、症例を挙げて、その時代の社会環境の変化に応じて医療がどのように変わってきたかを丁寧に解説していただきました。リウマチ熱が溶連菌による感染症であり、感染後の免疫学的機序により長い年月を経て弁膜症が形成される事、ペニシリンの投与によりリウマチ熱が治癒するようになったため昭和30年代以降は新規の患者の発生は見られなくなったと述べられました。また水銀利尿剤しかなかった頃から、フロセミド（®ラシックス）の登場により心不全の治療が楽になったこと、カルシウム拮抗薬の登場により重症冠攣性狭心症（異型狭心症）を見ることが少なくなったことなど、ご自身の狭心症罹患歴も交えて解説されました。また心臓外科治療についても、人工心肺がなかった頃より、人工ペースメーカー、直流除細動器、IABPの発明、人工弁の改良・進歩及び心臓移植術まで言及されました。廣澤先生のライフワークは心疾患の自然歴の研究で、60年もの長きにわたり1人1の患者さんを丹念に診察されてきた賜物です。今回の講演では、随所に廣澤先生の心臓病疾患と戦後の日本社会に対する考え方が披露されて、医師会の先生方にも意義深いものとなったことと考えます。最後に、今回、医師会の先生方の御尽力により、第200回記念講演会が無事成功裡に終了出来ましたことを深く感謝申し上げます。更に、これからも末永くこの会を続けさせていただき、地域における循環器病診療の発展に貢献出来ればと願っています。



行事等紹介

戸塚糖尿病ネットワーク5周年記念学術講演会

糖尿病チームケアユニット 統括診療部長 宇治原 誠

平成13年に戸塚区医師会の医院の先生方と当院を中心として、糖尿病の連携診療システムである、戸塚糖尿病ネットワークを開始いたしました。糖尿病の教育入院や緊急時の対応を当院が担当し、地域の医院の先生は外来治療を行うという糖尿病の地域医療連携です。このネットワークは順調に推移し、泉区も含めた戸塚地域の年間約300名の糖尿病の患者さんが当院に入院され、その後は地域の先生の方で治療を受けています。このネットワークがこの11月に5周年を向かえますのでそれを記念し、学術講演会を7月27日に開催しました。

講師として東京女子医大糖尿病センター所長岩本安彦先生をおむかえしました。講演のタイトルは「2型糖尿病における薬物治療」で、糖尿病の薬物療法について素晴らしいご講演でした。糖尿病の地域医療連携についてもその重要性をお話しされ、この戸塚糖尿病ネットワークの実績も大変評価していただきました。

5周年をむかえ、今後も、戸塚区、泉区の医師会の先生方と連携し、戸塚糖尿病ネットワークにより戸塚地域の糖尿病診療をより充実させ、住民の皆様の健康増進に貢献してまいりたいと身の引き締まる思いをいたしております。今後ともよろしくお願ひします。

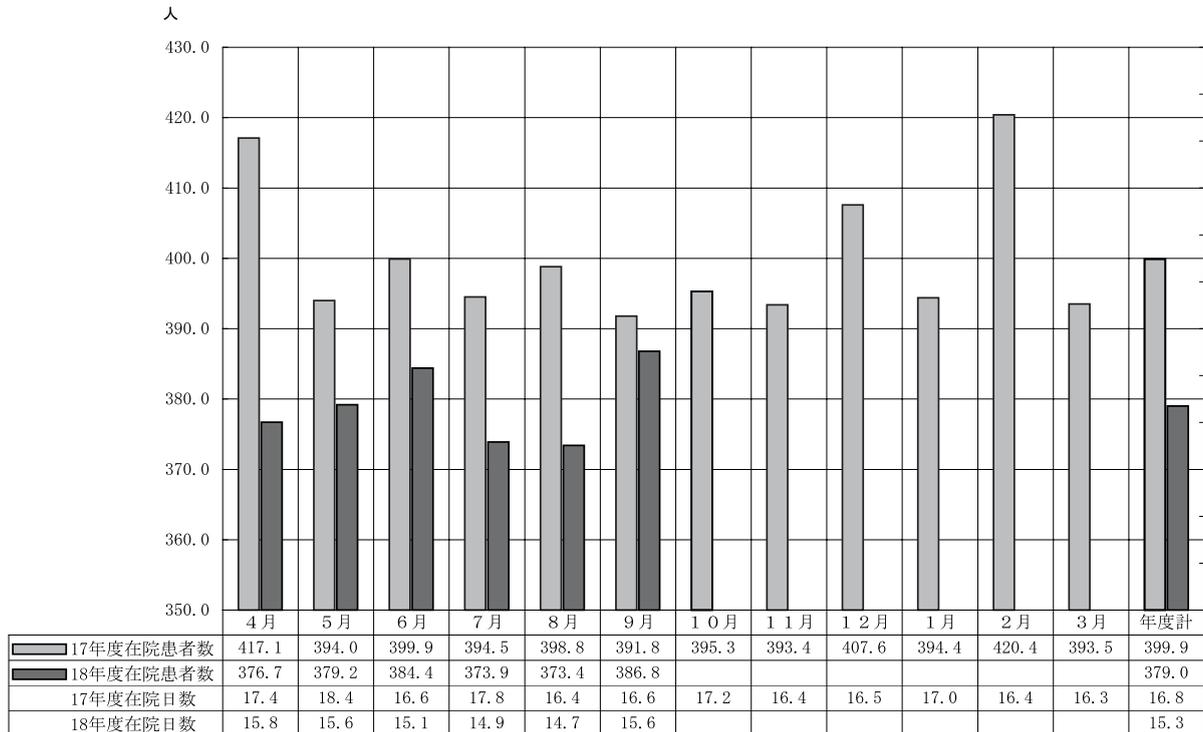


◆ ◆ ◆ ◆ 医師の人事異動 ◆ ◆ ◆ ◆ (H18.7.2~H18.10.1)

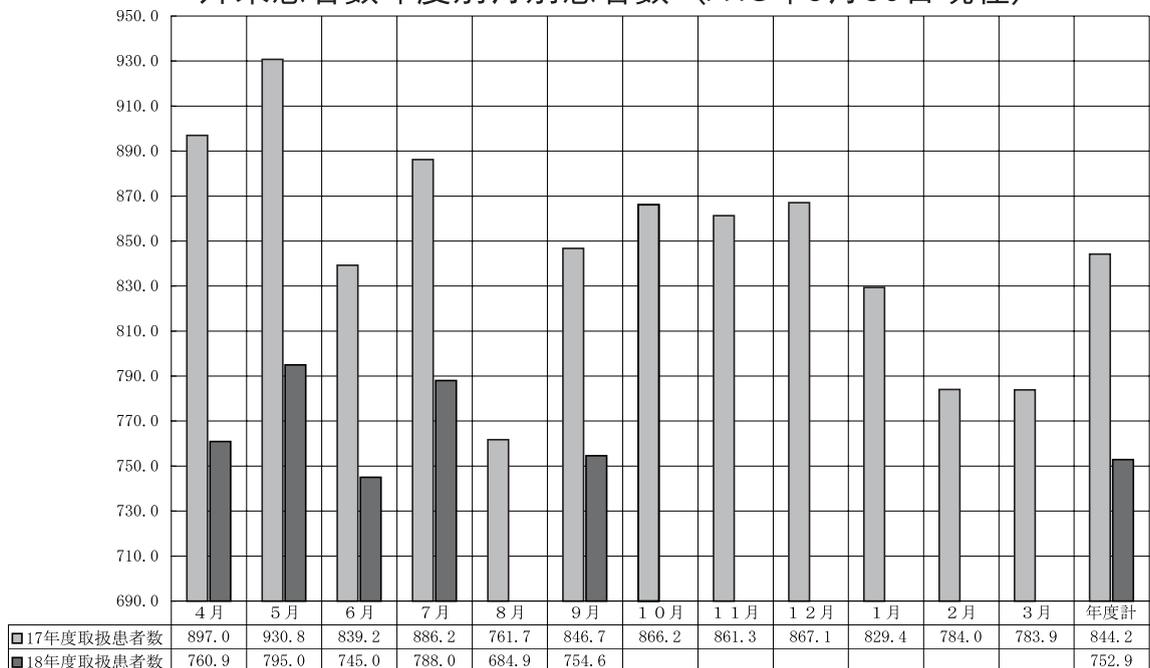
退 職 者				採 用 者		
発令年月日	氏名	職名	退職後の施設名	発令年月日	氏名	職名
平成18年7月31日	清水 健	消化器科医師	八重瀬会 同仁病院	平成18年10月1日	木 村 準	外科医師
平成18年8月31日	紅 露 有子	産婦人科非常勤医師	-	平成18年10月1日	新 美 裕 太	整形外科レジデント
平成18年9月30日	南 裕 太	外科医師	横浜市立大学附属病院			
平成18年9月30日	永 島 和 貴	整形外科レジデント	北信総合病院			

患者数の動向 ～1日平均～

入院患者数年度別月別比較 (H18年9月30日現在)



人 外来患者数年度別月別患者数 (H18年9月30日現在)



編集後記

ここ何年か健康診断で要受診の通知を受けている。現在も某病院に腎疾患で定期的に通院して、塩分を控えるよう医師から言われている。高脂血症は何年か続いていたが、昨年からはじめて「タマネギスライス」をほぼ毎日とり続けた。なんと中性脂肪、コレステロールが正常値になったのだ。今密かに「やった」と思えるちょっとした充実感である。しかし、それでもまだ異常値がある・・・。

せっかくの食欲の秋・・・気にしないで美味しいものを食したいものだ。

笠原 三千夫

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考	
総合内科・初診	第1・3・5週消化器、 2・4週循環器		松浦 宏之	関口 章子	泉二 恭輔	△:午後1:00～2:00(受付時間) ▲:紹介状持参の方のみ	
内科	高木 佐知子	今井 えりか	須澤 直木	宇治原 誠(予約のみ)注	宇治原 誠(予約のみ)注	注 内科・金曜日(第2・3・4週のみ)	
神経内科	土井 宏	△高橋 竜哉	検査日	土井 宏	検査日		
呼吸器科	橋原 基史	検査日	山川 泰	検査日	橋原 基史		
消化器科	交代医師	塚田 百合子 ■小松 達司(肝)	松島 昭三 羽村 公代	前出 幸子 ■小松 達司	小松 達司	■:午後の予約のみ 《循環器科新患当番医》 (月)第1・2[田中]・第3・4・5[岩出] (火)田中・(水)岩出・(木)田中[岩出]・(金)巽	
循環器科	巽 藤緒 加藤 丈二	岩出 和徳 へゝスメーカー-外来	田中 直秀	青崎 正彦 ▲田中 直秀	岩出 和徳		
リウマチ・アレルギー科	泉二 恭輔	検査日	検査日	■泉二 恭輔	■関口 章子		
心療内科	検査日	磯崎・須田	検査日	武川 吉和	検査日	<火曜日>奇数週(小児心身症)磯崎・偶数日(女性心身症)須田</> <木曜日>(認知症鑑別・一般心身症)武川	
精神科	立山 哲也 須田 彩子	武川 吉和	立山 哲也	磯崎 仁太郎	武川 吉和	※月～金;新患受付は10時まで受付可。 但し、当該医師以外の医師が診察いたします。詳細は精神科外来にお尋ねください。	
小児科	鎌木 陽一 石田 華	渡辺 由佳 原 良紀	鎌木 陽一 能本 紀子	小林 慈典 平井 綾	鎌木 陽一 交代医師		
外科	佐藤 靖郎 交代医師	関戸 仁 ◎土井 卓子	松田 悟郎	◎土井 卓子 ◎田辺 美樹子	◆高橋 俊毅 ◆山本 俊郎	◆:完全予約制 ◎:乳腺外来(火・木)完全予約制	
呼吸器外科					坂本 和裕 山仲 一輝		
整形外科	国府 秀俊 村瀬 知男 村上 恭平	日塔 寛昇 国府 秀俊 新美 裕太	国府 秀俊 村上 恭平 篠田 圭介	日塔 寛昇 村瀬 知男 新美 裕太 ※三谷 秀俊	日塔 寛昇 村瀬 知男 篠田 圭介	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30～10:00 ※予約のみ □:手術日のため午前のみ	
形成外科	高瀬 税		口高瀬 税	高瀬 税	高瀬 税	▲:第1・3・5週(火)岡田 富 第2・4週(火)宮原 宏輔 ※詳細はPM1:00～5:00の間に地域医療連携室までお問い合わせください	
脳神経外科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師 ※(脳ドック)	竹本 安範 ※(脳ドック)	急患のみ (手術日)	藤津 和彦 市川 輝夫 ※(脳ドック)		
心臓血管外科	東館 雅文	手術日	検査日	盆子原 幸宏	東館 雅文		
皮膚科	坪井 廣美 松井 矢寿恵 百瀬 葉子	松井 矢寿恵 百瀬 葉子	坪井 廣美 松井 矢寿恵	坪井 廣美 百瀬 葉子	坪井 廣美 松井 矢寿恵 百瀬 葉子		
泌尿器科	本田 直康	本田 直康	手術日	奥野 紀彦	本田 直康		
産婦人科	中村 秋彦 永田 順子	外村 光康 小林 久美	中村 秋彦 外村 光康	兼杉 輝彦 下村 貴子	永田 順子 中村 秋彦		
眼科	設楽 幸治	設楽 幸治	設楽 幸治	設楽 幸治	急患・新患のみ(手術日)	(受付) 初診・予約外再診とも 月～木曜日 8:30～10:00 新患・急患のみとなります。金曜日 8:30～9:30	
耳鼻咽喉科	山田 昌宏 交代医師	山田 昌宏	手術日	交代医師	山田 昌宏		
放射線科	栗原 須生美 ※注①	中山 優子 ※注②	日下部 きよ子 (甲状腺外来) ※注③		中山 優子 ※注②	※注①月曜日 8:30～11:00【完全予約制】 ※注②火・金曜日13:30～15:00【予約は内線4307まで】 ※注③診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。	
歯科口腔外科	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山 貴子	手術日	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山貴子(午前のみ)	新患(紹介状又は、診療情報提供書を持参して下さい)。【可能な限り】 新患は、火・木曜日の午前8:30～11:00まで。再診(完全予約制)。	
専門外来 (午後のみ)	小児	発達(福山)第2週 第4週 アレルギー・感染・免疫 (小林) 喘息(鎌木) 予防接種(アレルギーのみ) (交代医師)	予約外来(渡辺) 腎(伊藤)※第一週 喘息(鎌木) 予約外来(能本)	喘息(石田) 予防接種(交代医師) 発達(能本)	乳児検診(交代医師) 発達(能本) 神経(武下)※第3のみ		
	外科	横浜市乳がん検診 ※注④	癌化学療法外来	癌化学療法外来	癌化学療法外来	※注④横浜市乳癌検診の受付:14:00～16:00乳癌検診	
	女性診療外来	※注⑤		スキンケア外来 ※第2・4週		※注⑤担当医:【外科土井・皮膚科坪井】 女性のための総合診療をめざす外来です。 産婦人科受診希望の方は直接産婦人科外来を受診して下さい。女性外来では内診などは行っておりません。乳腺疾患は火・木曜日の乳腺外来で女性医師が対応します。全人的に対応し、必要があれば心療内科を含め複数科の女性医師が連携します。	
	産婦	母親教室			母乳外来		
	耳鼻	補聴器外来 腫瘍外来	アレルギー外来		補聴器外来	学童外来	
	循環	へゝスメーカー外来 ※注⑦					※注⑦ 第1・3・5週(加藤) 第2週(巽) 第4週(桜林)

初診受付:平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
再診(予約外)受付:平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
休診日:土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
地域医療連携室 (TEL 045-853-2331)

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。

